

理念 ① 子育て・教育の充実と 奥出雲を担う人づくり

総力戦のまちづくり「奥出雲創生」
つながりで築く 幸せと笑顔あふれるまち 奥出雲町



OKU
IZUMO
Plan for the future

- 基本目標 ① 子育てが幸せにできるまち
- 基本目標 ② 魅力的な学びの場があるまち
- 基本目標 ③ 大人も子どもも成長できるまち
- 基本目標 ④ だれもが活躍できるまち
- 基本目標 ⑤ ここに住みたい、住んでよかったと思えるまち

子育てが幸せにできるまち



施策を取り巻く社会情勢

令和元(2019)年の出生数は90万人を割り込み、「86万ショック」とも呼ぶべき状況となりました。合計特殊出生率も、ここ数年横ばい傾向にあります。少子化の主な原因は、未婚化・晩婚化と、有配偶出生率の低下であり、背景には経済的な不安定さ、出会いの機会の減少、男女の仕事と子育ての両立の難しさ、子育て中の孤立感や負担感、子育てや教育にかかる費用負担の重さなど、個々人の結婚や出産、子育ての希望の実現を阻む様々な要因が複雑に絡み合っています。誰もが結婚、妊娠・出産、子育てに希望を持つことができる環境づくりに取り組むことが求められています。

奥出雲町の状況 (現状と課題)

- ◆本町では、安心して子育てができるよう出産祝金、保育料軽減、医療費助成など経済的負担の軽減を図ってきました。また仕事と子育ての両立を支援するため、病児保育やファミリーサポート事業を始めていますが、休日保育等の多様なニーズもあり、需要に応じた事業の実施が求められています。子育ての不安に寄り添えるように様々な事業の周知を進める必要があります。
- ◆出産・子育て・就学へつなげる発達支援や、町立奥出雲病院の分娩休止に伴う町外への通院サポート、産後うつ予防など、妊娠期から子育て期までの相談支援や育児支援が必要です。また、包括的に取り組める切れ目のない支援体制づくりが必要です。
- ◆少子化が一段と加速していく現状にあり、その背景には未婚者や晩婚者の増加があります。(一社)しまね縁結びサポートセンターで実施しているしまねコンピューターマッチング「しまコ」の周知や出会いの機会を創出し、縁結びのサポートをする必要があります。
- ◆晩婚等による不妊に悩む夫婦を支援する取組が必要となっており、不妊治療助成制度を行っていますが、認知度は約5割にとどまっている状況です。

10年後のめざす姿

出会いを通じて奥出雲町の魅力を感じ、結婚した後も住みたいと思うまち
子育て環境がさらに充実し、「子育てするなら奥出雲」と思えるまち

まちづくりの目標

KGI (Key Goal Indicator / 重要目標達成指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
出生率(合計特殊出生率)	1.79	1.80	1.91
出生数	50人	60人	70人
小学校入学時の児童増加数	5人	7人	10人
婚姻数	40件	45件	50件

関連計画

第2期奥出雲町 子ども・子育て支援事業計画 令和2年度～令和6年度

取組

(1) 地域ぐるみで子どもを育てる環境づくり

仕事と子育ての両立を支援する取組として、放課後児童クラブ、一時預かり保育の継続実施、核家族や共働き世帯を地域でサポートするファミリーサポート事業等、ニーズに応じた子育て環境を整えるとともに、子どもが伸び伸びと遊べる遊び場の整備や子どもと保護者が安心して使用できる子育て支援センターをさらに充実していきます。

子育て世代の負担軽減のために全園児の保育料及び子どもの医療費を無償化するとともに、働きながら安心して子育てできる事業所の職場環境づくりを推進するため、「おいずも子育て応援事業所」の認定奨励事業をさらに進めていきます。また、住宅用地の確保や子育て世代を対象にした定住促進賃貸住宅などの整備等を進めていきます。

KPI (Key Performance Indicator / 重要業績評価指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
この地域で子育てしていきたいと思う保護者の割合	97%	100%	100%
保育料の無償化対象児	71%	100%	100%
18歳以下の医療費無償化率	82%	100%	100%
子育て応援事業所数	17件	20件	23件

(2) 安心して子育てができる支援体制の推進

不妊治療を希望する方にとって、受けやすい体制となる不妊治療費助成事業の制度の拡充を行い、制度の周知を徹底します。妊娠から出産・子育ての相談窓口を一本化するとともに、関係機関と連携し、妊娠期から子育て期まで切れ目のない相談支援体制整備や、産前産後の家事や育児サポート等、妊娠期から利用できるサービスの充実を図ります。

保護者の多様な就労形態や様々な家庭環境に対応するため、病児保育の充実を図り、休日保育の実施を推進します。また、相談者へ子育てに必要な幅広い情報提供を積極的に行う「結婚・子育てコンシェルジュ事業」の継続実施、リアルタイムで情報の提供ができるようWEBサイトや情報誌等で子育て情報を発信します。

KPI (Key Performance Indicator / 重要業績評価指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
不妊治療の認知度	51.9%	70%	100%
産後4月未満の訪問時に産後のうつ得点が9点以上の産婦の割合	5.4%	0%	0%
産前産後サポート事業訪問率	86.3%	100%	100%
産後ケア事業利用率	5.2%	8%	10%

(3) 幸せな未来をつくる出会いづくり

若い男女が奥出雲町に住んでみたいと思えるように、出会いの場を町内で開催するなど、奥出雲町の魅力を発信します。婚活イベントにあってはトレンドを把握し、若者の関心を高め参加意欲につなげます。

また、出会いへの意識の高揚を目的としたイベントの事前セミナーや個別相談を実施します。縁結び支援員、結婚・子育てコンシェルジュ、地域サポーター等が連携し、結婚を望む方の個別マッチングや成婚に向けてのアドバイス等相談者に寄り添ったきめ細やかな取組を進めます。

さらに、しまねコンピューターマッチング「しまコ」の運用を支援し、しまね縁結びサポートセンターと連携した出会いの環境整備に取り組みます。また、中学・高校生を対象に、結婚や出会いを含む人生設計を考える機会を設けるため、ライフプランセミナーの実施を推進します。

KPI (Key Performance Indicator / 重要業績評価指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
しまコ登録者数	11件	15件	20件

みんなが
協力
できること

- 町民・地域 ◆地域で協力して子育てをする
- 企業・団体 ◆子育てしやすい職場環境をつくる

魅力的な学びの場があるまち



施策を取り巻く社会情勢

新学習指導要領（小学校は令和2(2020)年度、中学校は令和3(2021)年度、高校は令和4(2022)年度から実施）により、「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力など」「学びに向かう力、人間性など」の3つの柱からなる「資質・能力」を総合的にバランスよく育ていくことを目指し、各学校で「主体的・対話的で深い学び」の視点で授業や活動を行うこととなりました。

奥出雲町の状況 (現状と課題)

- ◆旧村単位で小学校10校、旧町単位で中学校2校ありますが、児童生徒数は令和2年度の793名(小511名、中282名)から令和8(2026)年度には643名(小394名、中249名)に減少が見込まれており、旧町単位で小学校を2校にする再編統合を進めています。
- ◆また、町内には島根リハビリテーション学院、島根デザイン専門学校の2つの専修学校が立地し、学びの場の提供を通じた町外からの若者の受入機関としての役割を担っています。
- ◆令和元(2019)年度に策定した「奥出雲町の目指す子ども像」に沿って、奥出雲町への愛着と誇りを持ち、自らとふるさとの未来を切り拓こうとする子どもを育成するため、新学習指導要領を踏まえながら学校運営（支援）体制の充実と環境整備、地域との関わりを確保する取組が必要となります。
- ◆島根県が取り組む「しまね留学」や「高校魅力化」等により、横田高校への入学者数確保、1学年3クラス維持に町として取り組んできました。今後も町内中学校からの進学率を上げ、町外からの生徒を確保し、横田高校生の活動が地域の活力につながるよう、その支援を継続する必要があります。
- ◆少子化が進む中、専修学校、高校及び地域が連携して入学生の確保につながるよう支援が求められています。

10年後のめざす姿

奥出雲町全体や自分が生まれた地域との関わりについて考えながら、
将来の夢や目標を定める児童生徒が多数いるまち
専修学校の生徒が積極的に地域と関わりを持ち、
医療、芸術の分野から奥出雲の発展に貢献する人材育成の場となっているまち

まちづくりの目標

KGI (Key Goal Indicator/重要目標達成指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
奥出雲町のために貢献したいと思う子どもたちの割合 (独自アンケート実施結果による)	73%	80%	85%
高校卒業時の就職による町外転出者数 /5ヵ年平均(人口ビジョン取組目標)	8.5人/年	6人/年	6人/年

関連計画

横田高校魅力化ビジョン	平成29年度～令和3年度
-------------	--------------

取組

(1) 小学校再編と学校運営(支援)体制の充実

小学校再編については、町内に10校ある小学校を仁多地域、横田地域それぞれ1校に再編統合し、本町の目指す子ども像の育成に必要な教材備品、GIGAスクール構想の推進に向けたICT機器の整備と学習支援アプリの導入、魅力的な校舎建設等の施設整備を着実に進め、教育の魅力化と充実を図ります。

また、子ども一人ひとりの発達に応じた教育を行えるよう、特別支援が必要となる子どもにかかる幼稚園との連携、発達検査等支援体制の充実、各学校への特別支援員継続配置などに努めます。

KPI (Key Performance Indicator/重要業績評価指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
普通教室、特別教室への大型提示装置の設置割合	19%	60%	100%
支援員の数	23人	23人	16人
ブックPC利用率 (週3回以上)	—	50%	80%

(2) 奥出雲ならではの特色ある教育

たたら製鉄やそろばんなどの伝統・文化を活かした特色あるふるさと教育・知育教育を進めます。子どもたちの郷土への愛着を深めるため、公民館や地域組織と連携した学び活動、伝統行事の継承が実現できるよう、新たな人材の配置などを含めた学びの体制づくりを進めていきます。併せて、地域住民や企業、団体の皆様に各学校でのふるさと教育、キャリア教育に今まで以上に携わっていただけるような仕組みづくりを進めます。

KPI (Key Performance Indicator/重要業績評価指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
ふるさと教育、キャリア教育などの地域協力者リストの整備 (1公民館区につき30名以上)	0地区	4地区	9地区
そろばん等を取り入れた特色ある活動件数/年	—	9回	18回

(3) 幼稚園から高校・専修学校の魅力化

奥出雲の特色を活かして、幼児期から高校・専修学校まで、教育の魅力化を図ります。特に高校においては、学力の向上や進路選択肢の拡大のため、DX技術を活用し教育の充実を図ります。

総合的探求の時間における「奥出雲学²⁰」、独自の海外交流事業など多様な学習活動ができる町内唯一の高校、横田高校を支援し、横田高校地域協働コンソーシアム²¹を機能させ、その魅力化事業をさらに推進します。

また、奨学金制度等による支援により、学生の負担を軽減するとともに、地域をフィールドにした授業の実施など専修学校の魅力化を支援していきます。

KPI (Key Performance Indicator/重要業績評価指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
横田高校 県外入学者数	4人	10人	15人
横田高校への町内中学校からの進学率	63%	67%	70%

²⁰ 奥出雲学：横田高校が行う、奥出雲町の魅力や課題、地域の未来について生徒たちが総合的な探求の時間を使って取り組む学習活動。取組の中で生徒の課題解決能力やプレゼンテーション能力の育成を図り、成果は「奥出雲町への提言」として成果発表会にて発表する。

²¹ 横田高校地域協働コンソーシアム：島根県が県内市町村、県立高校と連携して取り組む「高校を核とした新たな人づくり・人の流れづくりプロジェクト」における取組の一つ。教職員と保護者だけでなく自治体、小中学校、地域住民、関係団体などが一体となる組織（コンソーシアム）を作ることで、社会に開かれた教育課程の実現と高校を核とした地方創生の持続可能な好循環を生み出すことを目指す。

みんなが
協力
できること

町民・地域

- ◆横田高校生との活動へ積極的に参加する
- ◆専修学校の学生との地域交流に協力する

企業・団体

- ◆ふるさと教育やキャリア教育、地域行事などで児童生徒と関わる機会を増やす



施策を取り巻く社会情勢

過疎地域では人口減少や高齢化が進展し、コミュニティ機能の低下に伴う様々な課題が深刻化していくなか、住民主体でこれらの課題や社会環境の変化に対応することが求められています。

また、地域の魅力や特色を改めて見つめ直し、その維持発展に取り組むことも期待されています。こうしたなかで、地域における社会教育には、生涯にわたる学びを支援し、住民相互のつながりの形成を促進することに加え、地域の持続的発展を支える取組に資することがより一層期待されています。

奥出雲町の状況 (現状と課題)

- ◆派遣社会教育主事の指導及び研修や県事業の活用を通して公民館職員の資質が向上し、各地区において特色ある公民館事業が展開されるようになってきています。しかし、参加者の固定化や高齢層に偏る傾向があり、幅広い世代での交流の場になるよう見直しながら、公民館や地域、学校が連携した活動を継続していく必要があります。
- ◆「地域づくりを担う人づくり」を目指し、公民館活動を中心に、自分ごととして主体的に取り組めるような、人づくり、地域づくりにつなげていく必要があります。
- ◆地域や学校における継続したふるまい向上の推進は、徐々に子どもたちに定着した取組となってきています。さらに、保護者を含む大人を巻き込み、地域全体で推進していく必要があります。
- ◆人権同和教育・啓発を進めたことにより、人権問題への関心は高まっていますが、社会全体においてハラスメントや人権侵害の問題等、人権に関わる新たな問題も生じている現状があります。

10年後のめざす姿

奥出雲町の風土・歴史・文化を愛し、この町の発展に資する人間力を培うための、地域の多様な人材を巻き込む社会関係資本 (ソーシャルキャピタル=人と人との信頼し合えるつながり) が構築されているまち

まちづくりの目標

KGI (Key Goal Indicator/重要目標達成指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
奥出雲町に愛着を感じている町民の割合 (町民意識調査)	73.6%	76.8%	80%
地域活動に参加している町民の割合 (町民意識調査)	46.8%	51.8%	56.8%

関連計画

—	—
---	---

取組

(1) 地域でのふるさと教育の拡充

生まれ育ったふるさとで「ひと・もの・こと」との関わりを通じた学習を推進していきます。

公民館を中心に「地域にふれ・学び・働きかける」ことを意識した活動を行い、地域住民が地域を知り、地域のことが好きになり、地域のために何かしたいと思うふるさとへの愛着と貢献意欲を育むことができるような公民館活動の充実を図ります。

KPI (Key Performance Indicator/重要業績評価指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
「地域にふれ・学び・働きかける」ことを意識した公民館活動回数/年	34回	34回	34回

(2) 奥出雲を愛する多様な人づくり

町内親学ファシリテーターを育成しつつ、保護者を対象とした「親学プログラム²²」を積極的に周知活用し、様々な人と相談しながら子育てができる場を提供していくとともに、模範意識や社会性を身につける取組(ふるまい向上)を推進します。地域の将来を担う若者が集い、活躍できる仕組みづくりや世代を超えたつながりを育む公民館活動の充実を図ります。学校再編を視野に入れた地域社会環境の整備や地域と連携した学びの体制づくりを強化します。

KPI (Key Performance Indicator/重要業績評価指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
世代を超えたつながりや若者育成を意図した公民館活動回数/年	17回	17回	17回

(3) 社会教育における学びの充実

公民館事業に「参加型学習」を取り入れる等、住民が主体的に地域の課題解決やまちづくりに関わるきっかけをつくり、地域の大人が子どもの学び・体験に関わる機会を増やし、大人も子どもも集い、学べる場を提供します。

各世代が共に参画する地域コミュニティづくりをめざし、小さな拠点づくりと連携を図りながら、多世代交流や体験活動の充実が図れるよう公民館事業を推進します。

KPI (Key Performance Indicator/重要業績評価指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
地域の大人が子どもの学び・体験に関わる公民館活動回数/年	34回	34回	34回

(4) 人権・同和教育の推進

地域や学校、関係機関、行政が一体となり、学校教育及び社会教育の両面から人権・同和教育を推進し、あらゆる差別をなくし、一人ひとりの人権が尊重される人権社会の実現をめざします。

公民館事業や図書普及等、あらゆる学習の機会を活用した社会教育における人権・同和教育の充実を図ります。

KPI (Key Performance Indicator/重要業績評価指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
人権・同和教育研修の実施数/年	10回	12回	15回

(5) 多文化共生・国際交流の推進

多文化共生社会実現のために、国際交流や多文化共生に関係する団体、ALT²³等との連携のもと、異文化交流活動の充実を図ります。また、小中高生を対象とする学びの場や国際交流の機会を拡大するため、関係機関との連携を強化していきます。

外国人住民に対して、必要な情報の提供、生活全般にわたる支援を行い、相互理解を促進し、多文化が共生する地域づくりを進めます。

KPI (Key Performance Indicator/重要業績評価指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
異文化交流活動 (ALTなどによる出前講座など) の活動回数/年	2回	4回	9回

²²親学プログラム：乳幼児をもつ親や小・中学生をもつ親(保護者)を対象とした学習機会。

参加型学習の手法を用いて、参加者同士が交流しながら、親としての役割や子どもとの関わり方について気づきを促すことをねらいとする。

²³ALT: Assistant Language Teacherの略。教育委員会から、児童・生徒の英語発音や国際理解教育の向上を目的として小・中学校・高等学校に配置される外国語指導助手。

みんなが協力できること

- 町民・地域 ◆公民館活動等に参加する
- ◆図書館を積極的に利用する
- 企業・団体 ◆ふるさと教育・キャリア教育活動に協力する

だれもが活躍できるまち



施策を取り巻く社会情勢

現在の日本では、憲法に男女平等がうたわれているにも関わらず、政策・意思決定過程への女性の参画率の低さ、男女間の賃金格差、育児・家事へ参画する男性割合の低さなど多くの問題があり、男女共同参画社会の実現は未だ道半ばにあると言えます。

近年、多様性のある社会を目指し、「目に見えること」だけでなく、価値観などの「目に見えないこと」も含めてあらゆる違いを認め合い、その違いを利点としていかしていく考え方が主流となってきています。

奥出雲町の状況 (現状と課題)

- ◆本町の人口は毎年約250人の減少を続けているのに対し、高齢者人口は微増し高齢化率は全国平均を大きく上回っており、今後ますます高くなるが見込まれます。
また、高齢化や核家族化の進展に伴い、一人暮らしの高齢者や高齢者のみの世帯が年々増加してきています。
- ◆豊富な経験や知識を有する高齢者の方々の関わりの場が限られ、知り合う機会が少なく、また、多様な人材を活用し合える地域の仕組みづくりが希薄になってきています。
- ◆地域コミュニティにおいて、高齢者・男性が中心となって活動が進められることが多く、依然として若者や女性の活動への参加、世代間のつながりが弱い現状にあります。また、男女が協働で子育てや仕事を両立し、共に責任を担う意識が低い傾向にあります。
- ◆今後は高齢者の生きがい対策として、高齢者の豊富な経験から得られた技術や知識が生かせる場や交流の機会を確保することが必要となってきています。

10年後のめざす姿

多様性のある社会を目指し、様々な「違い」を認め合い、みんなで何かを成し遂げるための相互理解と情報共有、「目的に向かって協力し合う気持ち」のあるまち

まちづくりの目標

KGI (Key Goal Indicator / 重要目標達成指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
男女共同参画社会の推進に町として達成していると感じている町民の割合 (町民意識調査)	14.4%	22.2%	30%
奥出雲町 管理職に占める女性割合	25%	15%	20%

関連計画

第三次奥出雲町男女共同参画計画 令和4年度～令和8年度

取組

(1) 多様な人材が活躍する仕組みづくり

性別による固定概念だけでなく、価値観などの偏見を取り払い、それぞれの個性や考え方、能力に応じ、社会参加ができるよう普及啓発を推進するとともに若者や女性の声を地域づくりに反映する場を設けるなど多様な人材が地域社会の維持存続に向けて活躍するコミュニティ活動を支援していきます。

また、女性が社会参加しやすい体制づくりと、性別、年齢、価値観などが共に尊重される仕組みづくり、みんなで支え、協働し合える家庭、職場、地域づくりを推進し、誰もが社会に貢献し生きがいを感じ、いきいきと暮らせるまちづくりに取り組めます。

KPI (Key Performance Indicator / 重要業績評価指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
町各種審議会等女性委員の割合	22%	23%	25%

(2) すべての世代が笑顔で暮らせる社会づくり

地域のなかで、高齢者や子どもたちが集いふれあえる交流の場を提供し、世代間の交流を促進します。

また、高齢者が培ってきた知識や経験等を次世代に継承し、女性や若者の意見提案などにより、お互いの違い等を受け入れ、尊重し合う多様性の大切さに気づけるような公民館活動、生涯学習の充実を図ります。

KPI (Key Performance Indicator / 重要業績評価指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
世代間交流を意図した公民館活動数/年	18回	22回	27回

(3) 高齢者の活躍推進と社会参加の促進

シルバー人材センター会員数、老人クラブの加入者数は年々、減少傾向にあります。特に老人クラブについては、まだ立ち上げられていない地区があるため、設立を支援します。

今後は、さらに若手会員や女性会員の積極的な参加を社会福祉協議会などの関係団体と連携し促進します。

高齢者の方々が、これまで様々な分野で培ってこられた経験を活かしながら、地域社会の一員として大きな役割を担い、町全体の一層の活性化を図ります。

KPI (Key Performance Indicator / 重要業績評価指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
シルバー人材センター会員数	235人	245人	250人
老人クラブ加入者数	1,186人	1,200人	1,250人
老人クラブ数	8地区	9地区	9地区



幼稚園児との笹巻づくり

みんなが
協力
できること

- 町民・地域 ◆共に協力し合う意識を持つ
◆価値観の違いを認め合う
- 企業・団体 ◆多様な人材登用を検討していく



施策を取り巻く社会情勢

若い世代が進学や就職により、都市部へ流出しており、地方にとって若者の移住定住対策は喫緊の課題となっています。特に20代から30代の女性の人口流出が著しく、人口減少に歯止めをかけるにはこの世代と地域との関りを深め、定住につなげていく必要があります。

また、首都圏一極集中の流れの中、全国的に市町村間での移住支援施策による競争が激化し、移住先として認知してもらうためには、更なるPRと先進的な施策が必要とされ、若者や女性が魅力を感じるまちづくりが今求められています。

奥出雲町の状況
(現状と課題)

- ◆ 住みたいまちとしての魅力を高めるために、移住定住の基本となる住まいの確保が課題となっています。特に単身用住宅は、慢性的に不足しており、世帯用住宅についても町営住宅以外の空きが無く、空き家バンク登録物件についても、すぐ入居できる物件が少ないため、移住希望者と住宅のマッチングが難しい状況にあります。
- ◆ 空き家バンク制度においては、賃貸物件が希望される傾向にあり、利活用可能な賃貸物件の掘り起しが課題となっています。
- ◆ 町内企業の求人情報を広く情報発信し、求職者に届けるために無料職業紹介事業に取り組んでいますが、中高年層のマッチングにとどまっており、今後は若い世代のマッチングを増やす必要があります。
- ◆ テレワーク、リモートワークの拡大により安定した通信サービスの提供は、新しい生活様式の実現には不可欠な要素の一つとなっています。今後、情報通信技術を活用した仕事、活動に対応できるインフラ整備が求められています。

10年後のめざす姿

子育て世代が充実した生活を送り、奥出雲町の魅力を感じながら、安心して幸せに暮らせるまち

まちづくりの目標

KGI (Key Goal Indicator/重要目標達成指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
社会動態の減少幅の抑制 (人口ビジョン取組目標)	0人	60人	60人
UIターン者数(二世帯以上の転入者数) (人口ビジョン取組目標)	69人	98人	98人

関連計画

奥出雲町公営住宅等長寿命化計画 令和元年～令和10年

取組

(1) 子育て世代の「住みたい」を叶える環境づくり

子育て世帯を対象とした公営住宅などの賃貸物件や住宅用地、空き家バンク制度などの情報を収集し、一元化して発信します。

また、個別のニーズに合った住宅環境の選択肢を与えることで、ライフスタイルに応じた住宅を見つけ出せる環境を整えます。

KPI (Key Performance Indicator/重要業績評価指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
空き家バンクを通じた移住希望者との住宅マッチング成約件数/年	10件	10件	10件
公営公社世帯用住宅の入居率	91%	93%	95%
子育て世帯向け公営住宅の整備	—	4戸	8戸
住宅用地の整備	—	6区画	12区画

(2) 奥出雲を愛する関係人口づくり

奥出雲町に関心を持ち、関わりを望む都市住民等が、伝統行事やイベント、集落活動への参加、社会貢献などを通じて、関係人口として町との関係をより深めることが移住・定住につながります。関係人口の拡大を図るため、団体や集落また各種組織や企業など、受け入れ可能な関わりしるの情報を収集し、人と人をつなげる仕組みを整えます。

KPI (Key Performance Indicator/重要業績評価指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
お試し暮らし体験受け入れ組数/年	2組	10組	10組
出身者会・UIターン交流会の開催/年	2回	5回	8回

(3) 情報発信による移住定住の促進

移住希望者が「奥出雲町の暮らし」をイメージできるよう、有益となる各種情報を一元化し、インターネットなどを活用して広く発信します。また、田舎暮らしに関心を寄せる若年層や子育て世帯等をターゲットとして、時代に合わせた移住に関する情報を発信し、相談に当たれるよう環境を整え、町の魅力を発信していきます。

KPI (Key Performance Indicator/重要業績評価指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
奥出雲町定住支援サイトユーザー数	28,252ユーザー	36,000ユーザー	48,000ユーザー
町公式LINEフォロワー数	—	1,200件	2,500件

(4) 関係人口の拡大と地域間交流の促進

地域の担い手が不足し、行事や祭事など伝統的な文化の維持存続が危惧される中、出身地域や関心のある地域と関係を持ち、主体的・側面的に関わる関係人口の拡大はこれからの農村社会にとって欠かせないことです。

こうした関わりを大切に交流できる地域を育てるために、地域での深い付き合いを保ちながら、受け入れ先の掘り起こしや人と人をつなぐ仕組みづくり、交流を仲介する中間支援組織等を育成し、地域が多様な人材と関われる交流の輪を広げていきます。

KPI (Key Performance Indicator/重要業績評価指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
公民館活動における広域間交流イベント参加者数/年	50人	60人	70人

(5) 棚田を活用した農村振興

棚田地域振興法の施行により、棚田を核とした棚田オーナー制度の活用、郷土料理の提供、棚田ブランド米の販売、古民家を改修しての農泊や農業体験、棚田展望台、棚田のライトアップ、棚田カフェなど新しい視点での農村振興を推進します。併せて、中山間地域等直接支払事業の棚田加算を活用し、これらの取組を町全域の集落に広げます。行政の役割、集落、個人の取組を明確にし、農業体験や移住体験、短期宿泊体験などとの連携を促すことで、交流人口及び関係人口の拡大につながる仕組みづくりを進めていきます。

KPI (Key Performance Indicator/重要業績評価指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
中山間地域直接支払事業での棚田加算措置集落数	18集落	28集落	38集落

みんなが協力できること

- 町民・地域 ◆身近なUIターン希望者に声掛けをする
- ◆関係人口の受け入れと交流を促進する
- 企業・団体 ◆職場環境の整備と職員の処遇を改善する
- ◆社会人向けインターンシップを受け入れる